

『令和7年度BCP研修』に参加して

報告者：小杉南地域包括支援センター 石川 ひとみ



令和8年2月28日 サンシップとやまにて『BCP(業務継続計画)作成研修～被災経験から学ぶBCP作成と見直しポイント～』が、集合・オンラインのハイブリッドで開催されました。



第一部の講義では、講師の石川県介護支援専門員協会副会長 水上直彦氏から令和6年1月1日に発生した能登半島地震の発災後の時間経過において、どのように対応したのか具体的な説明がありました。災害発生直後は、職員にできる事は少なく地域の支え合いが大切であったとの説明を聞き、日頃から避難行動要支援者登録や地域の支援者とのつながりが必要だと思いました。

また、業務中に災害が発生した時は、混乱を防ぐ事が重要であり、指示はシンプルに、やらなければならない事がたくさんある中でもできる事から行う。スタッフも指示を待つのではなく主体的になり、小さな事からでも良いので、できそうな事を行い、互いにできた事や改善した事を素直に喜び、スモールステップとしていく事が長期的支援には必要な事として学びました。

第二部のグループワークでは、『実際に甚大な被害があった』『大きな被害があった』『被害が少なかった』の3つのグループに分かれ災害直後の時間の経過と共にやらなければならない事の体験を具体的な内容で行いました。各グループのワークでは、どんな事を情報収集するのか、必要な物は何か、誰に助けを求められるのか、改めて考える機会となりました。



日頃から関係機関や地域と災害が起きた時には、何を確認しどこへ連絡・相談するのか役割をお互い共有し、地域包括支援センターとして、災害が起こった時にどのように対応するか、今一度確認していきたいと思いました。